

## 東京都に対する意見・要望

補助第46号線全体の統一性を保ちながら、西小山駅前地区である原町一丁目・洗足一丁目地区の特性を活かした道路整備を望みます。局を超えた「オール東京都」として前向きに検討し対応いただくようお願いします。

### 具体的な意見・要望

- 5.5mの歩道幅員の確保
- 地域の防災性を向上させる設備の設置
  - ①スタンドパイプ等防災設備の設置
  - ②防災倉庫等の設置場所の確保
- ガードパイプや音響装置付き信号機等の交通安全施設の適切な設置
- 自転車と歩行者の通行帯の分離
- 雨水浸透機能を有する植栽帯の設置
- 場所に応じた植栽配置と地域主体の植栽検討
- 工事着手前及び工事期間中の安全対策

## 目黒区に対する意見・要望

補助第46号線の整備にあたって、さらなる地域の防災性向上を図るため、東京都の道路拡幅等に対する協力や、この提案の実現に向けて東京都と地域をつなぐ調整役となっただくことを期待します。

### 具体的な意見・要望

- スタンドパイプ等防災設備の設置
- 補助第46号線沿道への公園やポケットパークの整備
- 建替え促進支援の継続的な実施と不燃化促進
- 防災倉庫等の設置に関する手続き等の支援
- 46沿道でのAED設置箇所や非常用電源の確保
- 周辺地域の情報共有活性化に向けた支援
- 補助第46号線周辺の交通安全対策
- 新たな交通手段の導入に向けた検討・調整の支援
- 協議会の円滑な運営支援
- 東京都と地域とのつなぎ役

## 概要版

令和4年2月

補助第46号線原町一丁目・洗足一丁目地区

# 46沿道まちづくり提案

～「まちを分断する道路」から「まちをつなぐ道路」へ～

原町一丁目・洗足一丁目地区46沿道まちづくり協議会



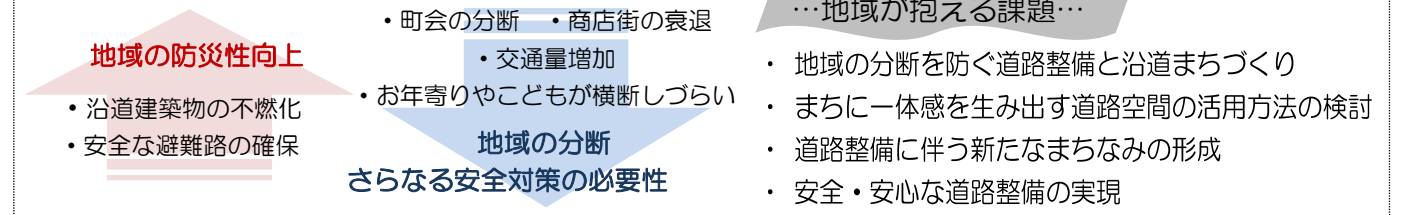
図：本提案の対象区域

### ■ 本提案について

現在、補助第46号線の整備が進められ、その沿道では、不燃化建替えに対する支援制度の導入等により建物の不燃化が進んでおり、地域の防災性は徐々に向上しています。一方、道路が拡幅されることによりこれまで一体的であった地域が、物理的にもコミュニティ的にも分断されてしまうと危惧する意見が多く出され、懸念が広がっています。

本提案は、東京都・目黒区、地域のみなさまへ、46沿道まちづくり協議会から今後の補助第46号線整備と沿道まちづくりの方向性を提案するものです。

### 46の整備が進むと…



### ■ 道路整備と一体となった沿道まちづくりのコンセプトと4つの方向性

コンセプト “まちを分断する道路” から “まちをつなぐ道路” へ

— 道路が地域のいのちを災害から守りつなぎ、道路での活動を通じて住民同士のつながりをつくり、道路が良好なまちなみを形成して地域と地域をつなげる場所となる —

本提案を通して、補助第46号線によって“地域を分断する”のではなく、道路を“地域が活用する”ことで、補助第46号線が「住民の生命と財産を守る」という役割に加えて、「地域にとっての新たな防災拠点」として、また、「地域の活性化やコミュニティ形成の場」として機能していくことを望みます。そのために東京都や目黒区、地域の方々とともに取り組むべき沿道まちづくりの方向性を4つにまとめました。

### — 沿道まちづくりの4つの方向性 —

- 【方向性1】46をさらに地域の防災性を向上させる道路にする
- 【方向性2】46を活用して地域コミュニティを継承し、賑わいを創出する
- 【方向性3】46を通じてみどり豊かな潤いのあるまちなみを形成する
- 【方向性4】46を“だれもがあるきたくなる”歩車が共存するみちにする

4つの方向性に基づく、具体的な取組は、2、3ページをご覧ください。

## 地域住民に対する宣言

協議会では補助第46号線の整備にあたって、道路を挟んだ地域全体で町会の枠を超えた防災組織を立ち上げて活動していこうと考えております。また通学の安全や日常の防犯、防災にも取り組んでまいります。



【写真】  
碑文谷八幡宮秋季例大祭で  
神輿3基が交差点で向き合う様子

### 具体的な取組内容

- 町会合同での防災活動の実施
- 地域のお祭りなどイベントを通じたつながりの醸成
- 46沿道まちづくりの実践

補助第46号線を地域のイベント等で活用できる空間とし、地域を分断するのではなく、町会などの既存の枠組を超えた“新たな地域コミュニティ”形成の場としていくことを提案します。

### ■ 提案の実現に向けた推進体制

提案内容の実現に向け、①原町一丁目・洗足一丁目地区46沿道まちづくり協議会、②東京都、③目黒区、④地域のみなさま、四者で協力・連携し、各主体の取組状況を確認し合うとともに必要な活動を行ってまいります。

# ■ 沿道まちづくりの4つの方向性と具体的な取組内容の提案

平成25年の設立以降、協議会では地域にふさわしい道路整備と一体となった沿道まちづくりについての検討を継続的に進めてきました。平成29年度からは、先行して整備が進む隣接地区との連携や「道路とまちの未来を考える懇談会」の開催を通じて、道路整備の進捗に応じた議論を重ねてきました。本提案は、これまでの協議会での意見をまとめたものです。

## 沿道まちづくりの方向性1

### 46をさらに地域の防災性を向上させる道路にする

取組内容

- ・46を活用した地域合同の防災訓練の実施
- ・有事に備えた体制構築に向けた地域全体への情報発信の仕組みづくり
- ・建替え支援策の継続・充実と周知啓発 など

必要な整備内容

- ・防災活動に必要な資材を入れる防災倉庫の設置
- ・道路上や沿道へのスタンドパイプの設置
- ・防災活動場所となる沿道の公園等オープンスペースの確保
- ・有事にはテントが張れる広い歩道空間の確保
- ・沿道マンションや商店でのAEDの設置

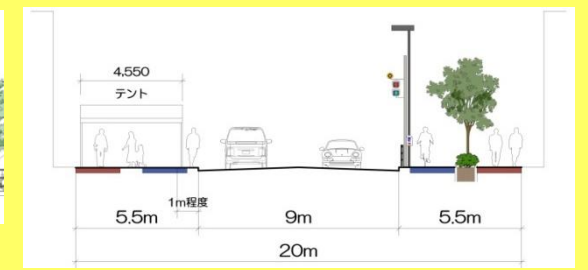
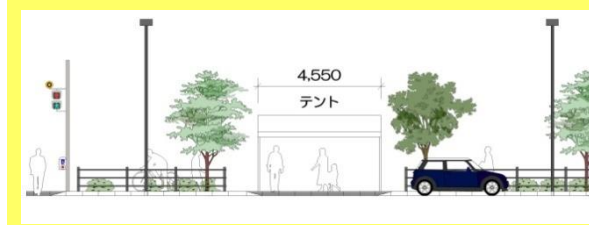
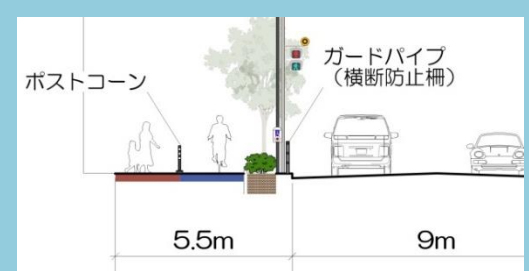
延焼遮断帯となる補助第46号線の整備に併せて、地域の防災活動の場や災害時の避難場所等としても活用し、住民の生命と財産を守り、地域の防災性をさらに向上させる道路にすることを提案します。

補助第46号線を地域のイベント等で活用できる空間とし、地域を分断するのではなく、町会などの既存の枠組を超えた“新たな地域コミュニティ”形成の場としていくことを提案します。



道路に街路樹や植栽帯を整備し、建替えられた沿道の不燃建築物とともに、みどり豊かで潤いのある魅力的なまちを形成し、補助第46号線の整備によって、地域の住環境の向上を図ることを提案します。

補助第46号線によって、周辺の様々な施設にアクセスしやすくなり、誰もが「歩いてみたい」と思えるまちにするため、補助第46号線を誰もが安全に安心して歩ける道路としていくことを提案します。



【整備イメージ】

## 沿道まちづくりの方向性2

### 46を活用して地域コミュニティを継承し、賑わいを創出する

取組内容

- ・沿道町会合同での地域（商店会や学校等）と連携したイベントの実施（46開通記念イベント、子どもたちと沿道で花植え、防災関連等）
- ・イベントでの活用を含む公園等の地域主体の管理体制の構築
- ・商店や町会が分断しない幅員の道路整備 など

必要な整備内容

- ・46沿道に地域で管理・活用ができる公園等オープンスペースの確保
- ・地域全体にイベント等の情報発信ができる共有の掲示板の設置
- ・イベントやお祭り時に円滑に移動できる広い歩道空間の確保 など

## 沿道まちづくりの方向性4

### 46を“だれもが歩きたくなる”歩車が共存するみちにする

必要な整備内容

- ・歩行者、自転車、自動車それぞれの安全確保
- ・子どもの道路利用増加に配慮した道路の安全対策
- ・人の滞留も可能とするオープンスペース等の確保
- ・病院や区役所などへ行くための西小山駅を経由するバス路線など新たな地域交通の導入
- ・歩道空間のバリアフリー化
- ・商店利用や道路横断を考慮した歩道幅員5.5mの確保
- ・見通しの確保や車道への飛出し防止対策としてのガードパイプの設置
- ・通学路への音響装置付き信号機の新設及び再設置
- ・歩行者と自転車の通行帯の明確な分離（インターロッキング舗装、カラー舗装等）など

#### ※工事期間中の対策

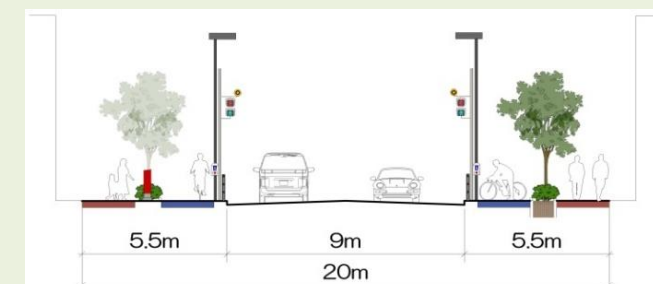
- ・道路予定地の歩道としての暫定活用

## 沿道まちづくりの方向性3

### 46を通じてみどり豊かな潤いのあるまちなみを形成する

必要な整備内容

- ・見通し確保等の安全対策への支障がないよう考慮した道路植栽配置
- ・延焼遮断帯の効果を担う街路樹等の情報発信や地域の意見を聞いた植栽選定
- ・雨水浸透機能を有する植栽帯の設置
- ・沿道権利者の車両通行への配慮
- ・地域での道路活用を考慮した植栽間隔等への配慮
- ・スタンドパイプが設置できるような道路の植栽帯や沿道への広場空間の確保
- ・沿道への公園等オープンスペースの確保 など



【植栽帯を歩行者と自転車の通行帯の間に設置する場合の整備イメージ】